

察の根本的な特徴といえるだろう^[2]。

本章の内容

- 診察へのアプローチ
- 特定の患者層へのアプローチ：身体もしくは感覚障害のある患者、LGBTQ(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(性同一性障害)、クイア・クエスチョニング)を含む
- 医療における格差
- その他のおもな注意点
- 診察の記録(電子健康記録を含む)

診察へのアプローチ

診察へのアプローチには、医療者主導のアプローチと、患者中心のアプローチの両面がある。医療者主導の場合、より症状に焦点を絞ったものとなり、医療者は「症状およびその詳細、その他診断に資すると思われる内容を主体的に問診していく」が、もしそれに終始するならば、往々にして、病気に関連する患者の個人的背景などは触れられずに終わってしまう^[3,4]。疾患の病理学的側面に重きを置くあまり、患者の個人的な要望や患者目線の考え方を無視してしまう恐れがある。その結果、患者の問題を理解し、解決する糸口となる情報がいつまでたっても引き出されないということが起こりうる。

一方、患者中心のアプローチは「患者が不安に思っている内容、気持ち、感情の表出を最重要なもの」と捉え、「患者にとってつらい症状や疾患における個人的背景」を探り出していくものである^[3]。専門家は、患者中心の問診を、「患者の考え、不安や要望を理解する際に、医師の見立てや考えなど余計な情報を与えずに、患者のペースに合わせること」と定義している^[3]。

疾患と病気を区別すると、医師と患者それぞれの視点が異なるものでありながら、同時に相互補完的なものであることが理解しやすい^[5]。疾患 *disease* とは、医療者が臨床診断にもとづいて症状を整理、説明したものである。病気 *illness* とは、患者が疾患によってどのような経験をしているかを説明する1つの形であり、人間関係、(生活、社会において果たす)自分の役割、幸福感への影響も含んだ概念である。患者の経験は、病前の個人・家族の健康状態、日常生活への影響、今後の見通し、対処法、医療への期待といった、多くの要素によって修飾される。現状や病気、疾患に関して、医師と患者双方の視点を踏まえて問診を進めていく必要がある。

例えば、咽頭痛の患者をみる場合、注目するのは、他の原因から連鎖球菌性咽頭炎を鑑別することかもしれないし、ペニシリンアレルギーを疑わせる病歴かもしれない。しかし、患者にとっての問題点は、痛みや飲み込みづらさ、仕事を休まなければならないことであるだろうし、あるいは以前いとこが喉の痛みを訴えて、

その後咽頭痛と診断されたことを思い出して心配しているのかもしれない。つまり、咽頭痛という一見単純な症状が、さまざまな不安を生じうるのである^[3,6]。こうしたことから、有効かつ熟練した診察のためには、患者中心、医療者主導の両方のアプローチを行う必要がある。

この2つのアプローチを組み合わせることで、患者の病気をより正確に把握でき、また医療者側の“尊重、共感、謙虚さ、気遣い”がより伝わりやすくなるという報告がある^[3,7]。また、患者、医師の満足度が上がり、そのうえ、期待された健康状態を達成するうえでも有効であるというエビデンスもある^[8,9]。患者の診察にこのアプローチを用いることは、患者の抱える問題を、あなた自身と患者双方の視点から評価することに他ならない。効果的な問診は、この2つの視点をうまく使いこなせるかどうかにかかっている。

このような枠組みの好例として、**Calgary-Cambridge Guides**(図1-2)がある。これは、生物医学的視点と患者視点の両方から見た病状経過について問診を進めていくことに主眼を置いて、診察の流れを時間軸に沿って体系的に整理したものである。5つの段階、すなわち**診察開始**、**情報収集**、**身体診察**、**説明と計画**、**診察終了**に分けられる^[10-12]。

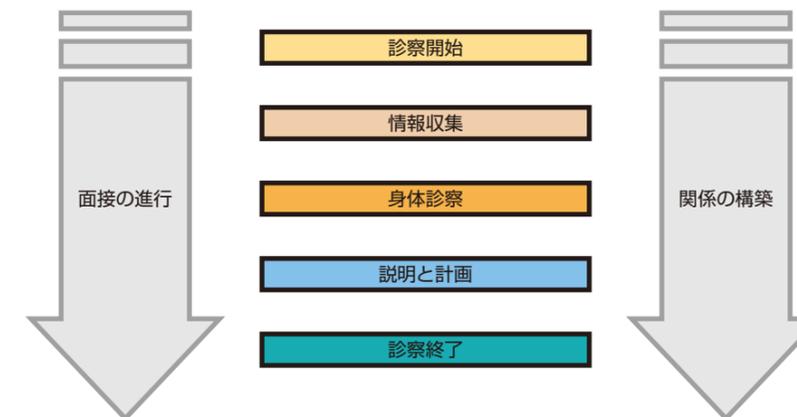


図1-2 Calgary-Cambridge Guides 改訂版：診察の枠組みと流れ(Kurtz S et al. Acad Med. 2003; 78(8): 802-809 より掲載)

診察の枠組みと流れ

一般的に、優れた診察は論理的な流れに沿って行われる(Box 1-1)^[13]。本章では、診察開始時と終了時の振る舞い、および患者視点での病気の認識を探ることに焦点を絞る。その後の章では、医療者の視点から疾患および患者背景や現状について問診を行う方法(第3章「病歴」)、身体診察(第4章「身体診察」)、鑑別診断と計画の説明(第5章「臨床推論、アセスメント、計画」)を扱う。さまざまな言語的、非言語的コミュニケーションのスキル、患者診察の質を高めるための方策